

計画第3期 小中一貫教育とCSの充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.45 R4.12.22 幕別町教育委員会 学校教育推進員

今日で2学期が終わります。コロナ対応や小中一貫教育・CSの推進に奮闘された各学校の皆様にご心から労いの言葉を送ります。本当にお疲れ様でした。

昨年の今頃はオミクロン株が出現し世界中が騒然となっていた時期です。感染力がこれほど強いとは当時は思わなかったものですが、それでも各学校ではしっかりと対応し各種教育活動を粛々と進めました。これまで得た知見と経験に自信をもちながら、今はしっかりと休養して年明け3学期に向け鋭気を養いましょう。

今月は、各学園の実践交流会、合同研修会等の様子を中心にお知らせします。

授業動画の事前視聴で 実践交流会開催 12/12 さつない学園



12月12日(月)、さつない学園の教育実践交流会が札内中学校を会場に開かれました。

今年度も、事前に公開授業の動画を視聴して参加するスタイルで開催されました。公開された途別小学校低中高3学級と古舞小学校高学年1学級の授業動画、指導案は、さつない学園かわり部のクラスルームにアップロードされています。GIGA スクールの端末とシステムを上手に活用した運営になっています。

この日は、公開された授業ごとに分科会がもたれ、授業動画をダイジェストで視聴しながら、事後研究の話し合いが行われました。各学校からほぼ均等に4つの各分科会へ参加した教職員による熱心な協議が続きました。「デジタル教科書」「Scratch」「Jamboard」「EduTown」「デジタマ」「D コンテンツ」「Google スライド」「Zoom」などのツールを活かした各校の授業実践の紹介や、実践上の悩み交流などもあり、参加者の興味を引きました。会の最後では、教科書やノートによる従来のアナログ的指導のいいところと、デジタル教材のいいところを融合させた「いいとこどり」の指導支援のさらなる高まりの重要性を確認し、4校の教職員が一堂に会した実践交流会の有効性を確認したところです。授業を公開した学校の校内研究に関わる資料が用意された分科会もあり、「話し合いの時間が足りない」との声があがるほど、学園研修への意欲が十分に感じられる交流会でした。

糠内学園の乗入授業と中学校登校(お詫びと訂正)

先月号の糠内学園の乗入授業、中学校登校について、「乗入授業は今後28日(月)、29日(火)の2日間も予定されていて、子ども達は朝の登校から6時間目終了まで過ごして下校する、という丸一日登校を合計3日間経験します。」とお知らせしましたが誤りでした。下記のように訂正いたします。

「乗入授業は今後28日(月)、29日(火)の2日間も予定されています。午前中は、糠内中学校教師が糠内小学校に出向き、6年生へ国語、算数、社会、理科、外国語の乗入授業を行い、午後からは糠内小学校5・6年生と明倫小学校5年生(6年生は欠学年)が糠内中学校に登校し中学生と合同授業を行います。」

小規模で少ない人員の中、乗入授業にも尽力し奮闘する糠内中学校をはじめ学園教職員の皆さんにご心からお詫びし訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。



ICT 活用授業実践交流会 12/12 糠内学園

12月12日(月)、糠内学園 ICT 活用授業実践交流会が学校教育指導要請訪問と兼ねて糠内中学校を会場に開かれました。

はじめに、ICT を活用した全学年体育の授業が公開されました。タブレットで前時の自分の演技と見本の演技の動画を見比べ、自分の課題を設定して練習するという内容でした。タブレットの動画、撮影機能を有効に活用していること、友達と動画を見て協働的に学んだり振り返ったりすることができていました。

その後、実践発表が行われ、糠内小学校の細川教諭、明倫小学校の植村教諭が、それぞれ自校の Chromebook 活用実践について発表しました。



糠内小学校では、低学年でのクイズ形式など子どもの意欲を引き出す活用が、中学年での明倫小学校とのオンライン交流学习や、動画視聴・調べ学習等個々のペースでの学習への活用が、高学年でのまとめる力やプレゼンテーション力の向上を促す活用が、それぞれ効果的だったと紹介されました。

明倫小学校では、夏・冬休みの作品発表会で一人一人が制作過程の写真を撮りプレゼンテーションソフトを使って発表していること、学活や道徳でジャムボードを使って意見交流をしていること、作文や文集づくりにグーグルドキュメントを使って作成、編集をしていることなどが紹介されました。

今後は、教職員のスキルアップや効果的な活用場面の研究が課題となる、とのことでした。



最後に、高橋真登指導主事から授業の講評と ICT 活用についての助言がありました。まず、情報活用能力を糠内学園として9か年継続して育てていく取組が素晴らしいとお話があり、公開授業についても、生徒に見通しをもたせ自己の状況に応じた課題を設定させていたこと、そのためにタブレットを効果的に活用していたことが高く評価されました。

また、学びを振り返る場面でシートへの打ち込みを継続することは自己の変容を実感でききわめて有効であること、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進め、そのために ICT 機器をうまく活用すること、活用場面として調査、思考、協働、制作の4つが考えられるが、協働活動として作文の推敲への活用が有効であることが説明されました。

授業者の授業改善と学習者の学びの改善の両方を進めながら、子どもたちの資質・能力の向上を目指すことが目標であり、そのために ICT 機器をよりよい学びのための道具としてうまく活用することが大事だとまとめがありました。

2年続けて ICT 活用の研究を進め、実践交流会を開催した糠内学園の奮闘に拍手です。



合同研修会開催 12/14 まくべつ学園

12月14日(水)に幕別中学校を会場に令和4年度まくべつ学園小中合同研修会が開催されました。教育委員会、学校運営協議会、町内小中学校より49名が参集し、中1数学、中2社会、中3英語(習熟度別少人数指導:3コース)の公開授業、研究発表・協議、児童生徒理解交流会に参加・参観していただきました。

全体進行は、学園コーディネーターが務め、研修会がスタート。開会式では学園長の挨拶に続き、来賓である菅野教育長より「乗入授業や小中相互の授業交流などの取組により小中教員が互いを知り、交流の深まりにつながっている」と挨拶がありました。

公開授業では、幕別中学校の研究テーマである「自ら考え、判断し、表現できる生徒の育

成～深い学びを目指して～」を具現化する①単元デザイン、②子どもの学びの姿である思考力、判断力、表現力を高めるための学習活動の工夫、の2点を視点として参観していただきました。

研究発表で上記2点についての取組を説明し、その後、研究協議を行いました。研究協議では、小学校の視点、他学園（ちゅうるい学園の参加者）からの視点、中学校の視点から、9年間の学びについての協議がされ、「小学校内容との関連や系統性をさらに理解し、9年間を見通した身に付けるべき力を押さえなければならないと感じた」、「どの教科でも表現する力を小中で計画的に育てていく、教師の力を高めていく必要がある」、「中学校での指導を小学校の指導にも生かしたい」など活発な意見交流がなされました。



参観いただいた学校運営協議会の委員の方からは、「子どもも授業者もクロムブックを活用し、効率よく効果的な学習ができていて素晴らしい」「TTを活用した習熟度別少人数指導により、思考力、判断力、表現力を個に応じて高めることができている素晴らしい」といった感想をいただきました。

続いて行われた児童・生徒理解交流会では、3つのグループに分かれて、「学校生活での課題」をテーマに話し合いをしました。これからの小中双方の学級経営や中1ギャップの解消、不登校防止につながる話題を出し合いました。

閉会式では、渡會副学園長が挨拶し、「これからも小学校のノウハウ、中学校のノウハウそれぞれを小中相互の授業改善に生かしていくことが大切」と学園のこれからのさらなる発展にエールを贈り閉会しました。

この研修会の目的である、まくべつ学園の児童生徒の9年間の学びと育ちについて授業公開および交流・協議を通して明らかにすること、今後の小中一貫の取組の充実・発展ならびに教職員の資質向上を図ることができた、充実した一日となりました。

平田オリザ氏ワークショップ開催 12/9 糠内学園

12月9日（金）、町友で劇作家の平田オリザさんによるワークショップが糠内小学校で開かれ、糠内学園の高学年児童（糠内小5・6年、明倫小4・5年）と中学生と一緒に学びました。

平田オリザさん作の教材は小中学校の国語教科書に採用されていて、全国各地の子ども達が教室で演劇を創作する体験学習を行っています。今回のワークショップも演劇の手法を取り入れたグループ創作を通して他者とのコミュニケーションについて学ぶ内容となっています。



作られた4つのグループには学園3校の小中学生がバラバラにメンバーとして入り、穏やかに話し合いを進めていました。3校時の第一ラウンドは、「配られたシナリオ教材をもとに、①役を決めて、②自分のセリフのところに印をつけて、③どのセリフを変えるかを話し合い、④練習を2回行う。これを20分でやる。」という学習です。シナリオは、①朝の教室で子ども達が雑談、②先生と転校生の入室、転校生の自己紹介と質問コーナー、③先生退室後の転校生を含む子ども達の雑談、という内容で、どのグループも静かに話し合いをしながらアイデアを出し合いグループなりのシナリオを作っていきます。1回目の発表会では、転校生の元の地域を沖縄から幕別に変えたり、セリフを自分達が言いそうな内容に変えたりとそれぞれ工夫が見られました。平田さんが発表の振り返りを行い、グループ一つ一つについて、工夫して変えたところを評価し、改善したほうが良いところを指摘。短くポイントを絞った的確な指摘に、平田さんの温かい眼差しを感じる振り返りでした。

その後、先生方も参加して集団ゲーム「仲間集め」を行い、子ども達の心と体をほぐしてから4校時の第2ラウンドに入りました。今度は、①配役を変えるかどうか、転校生がどこから来たかを話し合った後、②先生役と転校生役の人は相談して登場場面のシナリオを作る、

生徒役の人は相談して朝の教室の場面などのシナリオを作る、③実際に動いて練習する、という指示が出されました。各グループでは、集団ゲームの効果もありスムーズに話し合いを進めていました。平田さんは各グループを回りながら笑顔で称賛と助言を与え、「5校時は発表会だから、それまでの給食時間や昼休みも使って考えたり相談したりしてね。」との指示で第2ラウンドが終了しました。

5校時が始まる10分前には、どのグループも集合して最後の話し合いを行っていました。発表会では、セリフを変えたり動きを大きく変えたり等の工夫がどのグループにも見られ、1回目の発表よりもずいぶんと良くなっていました。振り返りの話し合いでは、①自分のグループでよかったこと、②もう少し工夫すればよかったこと、③ほかのグループでよかったこと、を3分で話し合い発表する人も決めることとの指示があり、各グループが一斉に話し合いを始め、グループ発表もスムーズに進みました。



各グループの発表の後、平田さんの講評があり、「どのグループもそれぞれとてもよかった」との評価のあと、「話し合いではタイムスケジュールを意識することが大事であり、話し合うことの優先順位をつけられることが大事になる。ジャンケンで決めていいこともあれば、正解のないことを話し合っ決めて伝えるということもある。その際大事になるのは折り合いをつけるということ。これから世の中に出たらこういう話し合いが多くなる。折り合いのつけ方について今日の学習をきっかけに考えてほしい。」とまとめがありました。

子ども達にとって、話し合いのスキルを磨く学習は貴重な経験になりました。幕別町では、これまでも令和元年度にまくべつ学園で、令和3年度にはちゅうるい学園で開催され、今年度は幕別清陵高校でも取り組まれています。(令和2年度はコロナ禍で中止)来年度もどこかの学園で開催する予定になっています。

子ども達の下校後、教職員レクチャーも行われ、芸術文化観光専門職大学初代学長としての立場からの考えも加味された「主体的・対話的で愛のある学び」について講話がありました。大学入試が学んだことを測る試験から学ぶ力を測る試験に変わってきていること、学力は学ぶ力でありそれを育てるために「誰と学ぶか」が大事であること、多様性のある集団の中で協働性、折り合いをつける力を学ぶことが大事になっていること等が説明されました。多くのことを学んだ一日となりました。

地学協働本部の活動、大きく進む！ 札内東学園



10月に下山プロデューサーの呼びかけで打合せを行い、まずは札内北小学校・白人小学校の2校で図書ボランティアの活動をスタートさせることになった札内東学園の地学協働活動。

札内北小学校のボランティアの愛称は「きたよー」さん。月に数回の活動日を決めて図書の貸出を手伝ったり図書の整理を行ったりしています。

白人小学校のボランティアの愛称は「チロッター」さん。毎週月曜日の定例活動日に、新刊図書のブックカバーがけや図書室の整備などを行っています。休み時間にチロ

ッターさんとおしゃべりをしたり折り紙をしたりするのを楽しみにしている子どもが増えています。

11月25日には、白人小学校で行われたデスティネーション十勝の学習プログラムを見学し、地域協働本部が今後一緒に活動できることを見通す機会をもちました。できることから始めて、今後の活動の幅を広げていくことにしています。

